

やまがた地球家族

YAMAGATA GLOBAL FAMILY



Odessa, Ukraine (Wikimedia Commons より)

『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』機関誌 VOL.18

世界的なコロナ禍は、青年海外協力隊をはじめとする JICA ボランティア事業にも多大な影響を与えました。2020 年 3 月には、71 ヶ国に派遣されていた 1785 名（うち山形県からは 16 ヶ国、23 名）の JICA ボランティア全員に帰国指示が発令。当会でも、協力隊員の壮行会や、対面型で実施していたボランティア家族連絡会など各種事業の開催を見送っておりました。今号では、2020 年度以降の情報をお伝え致します。

オンラインセミナー開催 ～山形県・岩手県発【マレーシアへ！海外とつながる企業の挑戦】

2022 年 2 月 16 日（水）当会と JICA 東北、協力隊を育てる会の共催で、【山形県・岩手県発、マレーシアへ！海外とつながる企業の挑戦】と題したオンラインセミナーを開催しました。民間企業や支援機関、大学生など 56 名が参加。

開会にあたって、当会の酒井会長から「山形県は特に中学生や高校生による SDGs や環境問題への関心が高く、国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト 2021 においても大変優秀な成績をおさめている」「本セミナーでも SDGs に向けた取り組みに関心のある民間企業・支援機関等の皆様の活発な意見交換を期待し、また今後も SDGs の実現を目指していきたい」と挨拶しました。

まず、JICA 東北 市民参加協力課から、JICA の海外展開支援メニューを紹介。そして「中小企業支援」「SDGs ビジネス支援」事業を活用している東北の企業 2 社から事例発表が行われました。

●事例発表① 事業を開始する（株）メタジェン様より、【腸内環境に基づいた新しいヘルスケアの形をマレーシアへ コロナ禍での案件化調査事業に挑む】と題したプレゼンを行っていただきました。

腸内フローラ、腸トレ、腸内細菌... 近年「腸内環境」に関するキーワードが話題になっています。メタジェン様は山形県鶴岡市に本社があり、その立役者とも言うべき存在です。

なぜ海外展開に挑戦するのか、なぜマレーシアなのか、そしてコロナ禍における調査の工夫等について説明がなされました。

●事例発表② 既に調査を終えた株式会社アサヒテクノ（岩手県北上市）様より、海外展開の必要性や対象国・地域の選定理由と課題、案件化調査の内容や成果、そして当該事業のメリット・デメリット等についてのお話を伺いました。（→2 頁へ続く）

写真左) ネットや SNS で発信された本セミナーのチラシ画像
写真右左) メタジェン様 / 写真右右) アサヒテクノ様



(→1頁より続き)

●**現地ニーズ紹介** 続いて、JICA マレーシア事務所から、マレーシアの投資環境や開発課題・ニーズ、求められる製品・技術について紹介をして頂きました。

開発課題・ニーズの一例として、食と栄養分野では栄養不良の二重負荷の現状があり、栄養バランスの取れた安心・安全な食事に対するニーズが高いこと等の説明がありました。



●**質疑応答・ディスカッション** 現地パートナーの探し方や、現地の医学・看護の教育・技術レベル、防災対策（特に水害対策）等についての質問が寄せられました。事例紹介企業や JICA マレーシア事務所から情報やアドバイスが提供されました。

＜セミナーに参加した大学生の感想＞

マレーシアの環境・医療・文化・歴史などの様々な知見が得られて非常に興味が沸きました。市場が急成長しているマレーシアに目を向け、現地の様々な問題に取り組む姿勢は非常に素晴らしいと思いました。マレーシアでは洪水が多いと聞いて普段目にするマレーシアとは違う一面が見られました。

セミナーに参加してみて、こうして同じ山形に住む人間として地元の企業が世界を視野に活躍していることを誇りにおもいました。私は将来起業したいと考えていて、いずれは海外に目を向けてみたいと思っています。ですので、このセミナーだけに留まらず、たくさんの JICA の人の話も聞いてみたいと思いました。

(東北公益文科大学2年・Hさん)

《令和元年度～3年度 協力隊を支援するやまがた地球家族の会 事業報告》

期 日	事 業	会場／参加者
令和元年 (2019) 6月 1日	定例総会：事業報告、決算報告、事業計画、予算の承認 モロッコ、ホンジュラスの帰国報告	出羽庄内国際村／20名
6月18日	令和元年度1次隊壮行会 フィジー隊員の表敬並びに壮行 ブルキナファソ隊員の帰国表敬	県庁／7名
11月15日	中小企業海外展開支援事業説明会 JICA、育てる会の報告、企業等6団体との意見交換	庄内産業振興センター ／20名
11月28日	元年度2次隊壮行会 カンボジア、ガーナ、キルギス、ホンジュ ラス2名の隊員の表敬並びに壮行、セネガル隊員の帰国表敬	県庁／12名
令和2年 (2020) 2月 9日	ボランティア家族懇談会及び帰国報告会 国際協力エッセイコンテスト受賞者の作文朗読 セネガル、パラグアイの隊員による帰国パネルトーク	国際交流センター ／38名
令和3年 (2021) 2月12日	途上国と東北企業をつなぐオンラインセミナー	オンライン／40名
6月 5日	定例総会：事業報告、決算報告、事業計画、予算の承認	国際村+オンライン ハイブリッド開催／20名
令和4年 (2022) 2月16日	オンラインセミナー 「山形県・岩手県発、マレーシアへ！海外とつながる企業の挑戦」	オンライン／56名
3月19日	祈りのコンサート ～ウクライナに心を寄せて ※ コンサート実行委員会との共催 ※ 人道支援チャリティーの処理のため、精算は次年度に行なう	出羽庄内国際村／70名

※ 令和元年 (2019) 6月1日に機関紙 vol.17 の発行

※ 令和2～3年度、壮行隊員と帰国隊員の知事表敬訪問は時節柄ありませんでした

※ 「協力隊を育てる会」のカレンダー作成並びに会員への送付

■ JICA 国際協力中高生
エッセイコンテスト **入賞おめでとう!**

県内中高生、優秀表彰者のエッセイを紹介!

次の世代を担う中学生・高校生を対象に、開発途上国の現状や開発途上国と日本との関係について理解を深め、国際社会の中で日本、そして自分たち一人ひとりがどのように行動すべきかを考えることを目的として実施されている事業です。山形県内からも大勢の中高生が応募しています。

2019年度～2021年度の個人表彰及び優秀表彰者のエッセイの内容をご紹介します。全文は『JICA 地球ひろば』HP [ホーム>プログラム紹介>国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト] で読むことができますので、是非ご覧ください。

2022年度のテーマは「世界とつながる私たちー未来のための小さな一歩ー」。応募締切は2022年9月11日! 素晴らしい作品が生まれることを期待しています!

◆国際協力特別賞

【核兵器のない平和で公正な世界を】

山田陸大さん/県立鶴岡中央高校2年

◆独立行政法人国際協力機構東北センター所長賞

【輪が作る世界の幸せ】 (高校生の部)

佐藤ほほえみさん/県立谷地高校1年

◆独立行政法人国際協力機構東北センター所長賞

【言葉の壁、心の壁】 (中学生の部)

鈴木日優さん/山形市立第五中学校2年

◆学校賞

- ・山形県立谷地高等学校
- ・山形県鶴岡中央高等学校
- ・山形市立第一中学校



◆2019年度 国際協力特別賞

【核兵器のない平和で公正な世界を】

山田陸大さん/県立鶴岡中央高校2年

(要約) 広島・長崎に原爆が投下されて七十四年。非人道的な核兵器が、現在進行形で存在している。被爆者や戦争経験者の声を聞き、長崎の原水爆禁止に向けた世界的なイベントに参加した。核廃絶の運動として、核不拡散条約や核兵器禁止条約などがある。核兵器の存在する世界の根底に広がるのは、不平等や脅威である。核兵器の力による不平等から生まれる国と国の間の息苦しさはあってはならない。

◆2020年度 審査員特別賞

【It's time to re-think poverty.】

高橋莓梨さん/山形市立金井中学校3年

(要約) 発展途上国の人々を描いたドキュメンタリー映画を観て、ハイチでは、未だに支援米が届くため地元の米が売れず。貧しい人達の自立を遮ってしまう事実があることを知って驚いた。適切な支援でなければ意味がない。募金や支援の先に、どんな世界が広がっているのか。世界の問題を自分ごととして、現地の人と直接コミュニケーションをとりながら解決する。苦しむ人達と同じ目線で「一緒に解決する」ことを大切にして取り組みたい。

◆審査員特別賞

【It's time to re-think poverty.】

高橋莓梨さん/山形市立金井中学校3年

◆独立行政法人国際協力機構東北センター所長賞

【私にできる支援のかたち】

安部葉さん/米沢中央高校2年

◆佳作

【より良い世界のために】

佐藤心花さん/県立鶴岡中央高校3年

◆学校賞

- ・南陽市立沖郷中学校
- ・山形県立谷地高等学校
- ・山形県鶴岡中央高等学校



◆2021年度 審査員特別賞

【自分達の地球は自分達で守る】

菅原光貴さん/酒田市立第一中学校3年

(要約) 酒田の離島「飛島」でゴミ拾いボランティアをした菅原さん。漂着ゴミが多い飛島。漁網、中身が腐敗したペットボトル、、、環境破壊を食い止めたいと思い少年少女国連大使に応募した。スイスの欧州国連本部でSDGsを学び、SDGs推進度世界一のスウェーデンでは日本との大きな差を感じた。学校での環境教育、一般家庭でゴミを100種類以上に分別するのが当たり前! リサイクル意識が高い! 日本でも子ども達が世界の現状を正しく知り、SDGsを身近に感じる事が最も重要であると思い、学校や地域で啓発活動をしている。

※全文は『JICA地球ひろば』HPへ(2021年度の表彰は4頁へ)

緊急開催！【祈りのコンサート～ウクライナに心を寄せて】



2022年3月19日、出羽庄内国際村ホールにて【祈りのコンサート～ウクライナに心を寄せて】を緊急開催しました。当会とコンサート実行委員会の共催です。

ウクライナの人口は約4400万人。およそ3割が戦争によって避難を余儀なくされています。710万人以上が国内で避難生活。680万人以上が、安全を求めてポーランドやハンガリー、モルドバやルーマニアなどの周辺諸国に避難し、難民となっています。平和を願い、ウクライナに心を寄せるという趣旨に賛同した音楽家5組10名が、プロもアマチュアも垣根を越えて音楽を奏でました。また、

売上の全額を寄付に充てる条件で出店して下さった方々によるマルシェも好評でした。高校生・大学生を含めた10名の運営ボランティアにも感謝致します。

今回、4つの寄付先を明示して募金を受け付け。各機関や組織がどんな活動をしているか認識した上で、支援して頂きたかったからです。寄付先と寄付額は下記の通りです。

- | | |
|-------------------|----------|
| ①国連 UNHCR 協会 緊急支援 | 18,000 円 |
| ②ユニセフ（国連児童基金）緊急募金 | 28,430 円 |
| ③赤十字 ウクライナ人道危機救援金 | 17,917 円 |
| ④フクシマの子どもの未来を守る家 | 14,098 円 |



◆審査員特別賞

【自分達の地球は自分達で守る】

菅原光貴さん／酒田市立第一中学校3年

◆独立行政法人国際協力機構東北センター所長賞

【フード・イノベーションを起こせ】

渡辺美晴さん／県立酒田東高校1年

◆佳作

【国産国消 消費する責任】

黒沼優花さん／山形東高校2年

【ウイルスに学ぶ】

渡部桃子さん／鶴岡南高校1年

◆学校賞

- ・山形県立谷地高等学校
- ・山形県鶴岡中央高等学校



◆富樫透事務局長から退任の挨拶

2004年の当会設立から17年の長きに渡り、大変お世話になりました。設立総会に始まり、企業懇談会やエッセイコンテストなど、多くの皆さん・機関と連携しながら事業を進めてきたことを、懐かしく思い出しています。これからも顧問として当会の発展に貢献していく所存です。宜しくお願い致します。



『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』入会のご案内

- 【会費】 ●個人会員＝3000円 ●家族会員＝1000円（個人会員の家族）
●学生会員＝1000円 ●団体会員＝10000円（企業及び団体）

【会員特典】 JICA ボランティアの姿を通して、世界が見える！

「国際ボランティアマガジン 月刊《クロスロード》」を、年間購読料5000円のところ、希望する会員には2000円の送付手数料のみで1年間12冊ご提供いたします。

☆お問い合わせ／ご入会のお申し込みは、当会事務局まで。

やまがた地球家族 Vol.18

令和4年6月5日発行（第18号） 発行人／酒井忠久



発行／〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町 13-35 田中方『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』事務局

TEL) 090-2743-9895 (田中)

E-mail) info@chikyukazoku.net Website) http://www.chikyukazoku.net/